

長野県長野南高等学校の存続と 地域合意のない長野県立 高等学校改革プラン実施計画の白紙撤回を求める請願書

平成18年9月5日

長野県議会議長 荻原 清 様

紹介議員

請願者 氏名 長野南高校の存続を願う会 会長 麻 沼 和 男
住所 長野市稲里町田牧字大北 236-2 TEL026-284-8850

氏名 長 野 市 長 鷺 澤 正 一
住所 長野市大字鶴賀緑町 1613 TEL026-226-4911

これまで長野県教育委員会が示している「長野県高校改革推進プラン」は、地域合意を得ないまま再編対象校の具体的校名を挙げ、平成19年度の計画一斉実施の姿勢を崩さず拙速に進めております。

私たちはこれまでも、あらゆる機会を通じて、本件については性急に結論づけるのではなく、関係団体から十分意見や提案を聴取した上で県民の合意形式を図るべきである、と訴えてまいりましたが、県教委はこれらを無視した姿勢をとり続けておりました。

そんな中、過般執行された長野県知事選挙において現職が落選、「地域合意のない再編計画の白紙化」を訴えた新人の村井 仁氏が当選を果たしました。

これに呼応するように、丸山 愷県教育長が前知事の任期切れに伴い辞任、またその後の新知事と県教委の懇談の席で松田泰俊教育委員長が、現行の高校改革プラン実施計画の見直しも含めて県教委定例会で議論すると発言するなど、県教委は新県政発足と同時に現実的な対応を模索し始めたともみられます。

県立高校の統廃合については、わが国の人口減少傾向からみても、将来的には考えるべき課題であることは私どもも認識しておりますが、今回の高校改革推進プランは、地域の現状に沿わない内容になっております。とりわけ旧第四通学区（犀川以南）については、更北・川中島地区で須坂市の人口を上回る57,000人を有しておるにも関わらず長野南高校を廃校に追い込むという不合理極まりない計画であり、現在の状況下では、地域住民の理解を全く得られておりません。しかも、我々は地域住民の意思表示ともいえる存続の署名を県教委に対し41,519筆提出しております。

また、これまでに通学区ごとにまとめられた「高校改革プラン推進委員会」の報告書において、松代高校と長野南高校は「長野市南部の人口の動向や募集の状況から、すぐにも再編・統合が必要な状況にはない」としておるにも係わらず、今回のプランは、理事者側が敢えて設置した委員会の報告書を無視しており、この経過も整合に欠けているといわざるを得ません。

また、村井知事は、高校再編議案を一括して提出するのではなく、対象校ごとに個別の議案として提出する意向も示されている中で、「長野県高校改革推進プラン」については、今回の知事交代を機に、再検討すべきであると強く考えるところであります。

つきましては、次の事項についてお願いいたします。

(請 願 事 項)

県教委が長野南高校の募集停止等の提案を行った場合はこれに同意せず、同高を存続していただくと同時に、地域合意のない長野県立高等学校再編プランを白紙撤回し、再検討することをお願いいたします。